

それに対する質問のメールです。

「信仰というのは心の中の問題ですよ。あなたはプーチンの心の中を見ることができるんですか。どうしてプーチンがクリスチャンでないと言えるのですか。自称クリスチャンと聖書的クリスチャンの違いは、どこを見たら分かるのでしょうか。そもそも、信仰とは何でしょうか。」

コメント欄にも一部、そういうことが書いてありますよね。

そのメールを見た時、本当に素晴らしいなと思ったんです。自分と意見が違うにも拘らず、意見の異なる私に対して、非常に敬意を表してくださっていることが文面から伝わって来たんですね。意見が異なるとついつい感情的になるものですが、私に色々気遣った言葉、そして、本当に中身のある対話をしたいというお気持ちが伝わって来たのです。

それで、お答えすべきだと考え、第1回目を取り上げることにしました。

プーチン大統領は聖書が言うクリスチャンではないという根拠。

彼は元 KGB/秘密警察工作員でしたが、エリツィン政権下、エリツィンが大統領をやめる直前、彼に任命されてロシア首相になりました。首相になってまず、チェチェンという国にロシアの大軍を送り込み、無差別攻撃で火の海にしてしまっただけで大量虐殺をやったんです。

チェチェンはロシアの南の方にある、ロシア共和国の一部となっている国ですがイスラムの国で、ロシアから離脱・独立したいという意見の人たちが多かったんですね。

そして、独立派のテロによって大きな事件が起こされたんです。

プーチンが首相になった直後、モスクワをはじめいくつかの都市で、高層アパートが爆破されるという事件が4件連続し、この爆破事件で、少なくとも300人以上のロシア人が爆殺されたのです。

FSB（KGBの後継組織の秘密警察）が捜査したら、先ほどのチェチェン独立派のテロリストが、一般市民をターゲットにして爆破事件を起こしたことが分かったと。プーチンは黙ってませんでした。

「わが国民に対してなんちゅう事をするのか！テロは断じて許さん！」

大量のロシア軍を送って無差別攻撃。ロシア国民はこれに喝采しました。

今までのロシアのリーダー、例えばエリツィンはいつも酔っぱらってて、国内がぐちゃぐちゃになっても、国民にプラスになることはほとんどしてくれない。

しかし、プーチンは実に頼もしいリーダーだ。我々が危害を被った時、すぐさま反撃してくれる！彼の株は一気に上がりました。そして直後の2000年の大統領選挙で圧勝し、1回目の投票で第2代ロシア大統領に当選したのです。



大統領選挙があった2000年、FSBを辞めてイギリスに亡命した人物がいます。アレクサンドル・リトビネンコ。彼はイギリスに亡命し、イギリスの国籍を申請してイギリス人になりました。

彼はロシアの秘密警察 FSB の一員でしたが、その仕事の中身があまりにも非人道的で、人間としてやってはならない事を次々命じられ、良心の呵責に耐えかねて、これ以上 FSB の仕事を続けることはできないと辞めてしまったんです。

しかし、「秘密を知り過ぎた男が FSB に批判的な思いを持って辞めた」ということで、FSB からマークされ、迫害を受けるようになりました。「これではまともな人生を生きることができない。

人間らしい人生を送るには、ロシアの外に出るしかない」と判断してイギリスに亡命したのです。それが2000年のことです。イギリス人になった時、プーチン大統領の命令でFSBが行って来た、様々な恐るべき事件について暴露したんですね。

暴露した事件の1つがモスクワのアパート連続爆破事件です。爆破した本当の犯人は実はFSBだった。チェチェン人のテロリストではなかった。FSBの自作自演。もちろんプーチンの命令ですよ。

FSBが自国民が住んでいるアパートを爆破して300人以上の大きな犠牲を出し、その責任をテロリスト・チェチェン人に擦りつけた。そして、それを口実にして戦争を始め、一気にプーチンの人気上がり、大統領に当選することができた。すなわち、プーチンは自分が大統領に当選するために、何の罪もないロシア国民を300人以上爆殺した。その命令を下したということだったのです。

プーチンが本当のクリスチャンなら、そんなことは出来ません。神を畏れるクリスチャンは、そんなこと出来ないんです。というのは、クリスチャンは“神は最後の審判で一人ひとりの罪を裁く。人間がどんなに隠しても神はすべてお見通しで、すべての人は神の前に立つ。神は私たちの心の動機までもすべてご存知である”と知っているのです。

プーチンはこの事件を行っただけではなく、この後も似たような事を続けます。自分の権力を保持するために、何の罪もない人々や自分に不利な情報を流すジャーナリストたちを、次から次に闇に葬り続けている。今もですよ。そんなことをしている人物なんですね。だから、彼は聖書的クリスチャンではないんです。自称クリスチャンであったとしても、聖書が語っているクリスチャンではないんですね。

「でも、ロシア正教の教会に行って礼拝してるじゃないか。キリル大司教から祝福を受けているじゃないか。」あれは儀式です。儀式とクリスチャンは別です。クリスチャンはイエス・キリストを信じて新しいいのちをもらった人のことで、儀式ではなく、いのちの転換なんですね。

「では、本物のクリスチャンと、そうでないクリスチャンはどこが違うのか。儀式に出ているだけではダメなのか。」心が伴う儀式ならいいですよ。でも、心が伴わなければ見かけ倒しなんです。

昔『ゴッドファーザー』か何か、マフィアの映画を見ました。イタリアのマフィアの話。マフィアの殺し屋がボスの命令で人殺しをして、週末の土曜日になるとカトリック教会に行って、電話ボックスみたいな木の箱に入ります。その箱の向こう側にいる神父さんに「私は悪い事をしました。罪を犯しました。酷い事をやりました。私を赦してください。」すると神父さんが「分かりました。神様はあなたの告白を聞いて赦してくださった。」彼は「赦された！」と言って出て行くのですが、次の週末別の人を殺す。そして土曜日になったら告解。箱に入って「すみませんでした。ごめんなさい。」それをすれば赦されると思っているのですが、これはおまじない。赦されるからと箱に入って、形だけ「ごめんなさい」と言っている。

だけど、「ごめんなさい」の罪を捨てるつもりが初めから無いんです。
その罪をやめるつもりが全然無い。

聖書が語っている信仰は、神に対する悔い改めとイエス・キリストに対する信仰告白です。
本物の信仰はその罪を憎んで捨てること。その罪から逃れるために、それを痛んで神に告白する。
そして、本当の悔い改めには償いが伴うんですね。盗んでいるなら賠償する。

本当に悔い改めたのなら、箱から出たら次の殺人に向かうのではなく、警察に行って自首すべきなんです。そうならず前のことを繰り返すのは、型をやっているだけで心が伴っていないんですね。
これは自称クリスチャンで、本物の新生を経験していません。
口先だけの見かけ上のキリスト教徒で、聖書が語っているクリスチャンではないのです。
プーチン大統領がやっているのはそれとそっくりですね。
彼はその後も、自分に逆らう人を闇から闇へと葬っていくことばかりだからです。

ところで、プーチン大統領の様々な悪行を暴いたリトビネンコ氏はどうなったでしょう。
暗殺されました。

既にイギリス人になっていた 2006 年 11 月、ロシアから 2 人の FSB 職員・元同僚が来て「久しぶりやな。イギリス生活慣れたか。」旧友に会うということで、ホテルで会って、リトビネンコ氏は緑茶を飲んだんですね。その 3 週間後、亡くなりました。



いったいどうなったんでしょう。
しばらくすると、目がかすむ・吐き気がする・下痢が止まらない・髪の毛が全部抜ける。眉毛までも。
どんどん体が弱って「ああ、やられた。毒を盛られた…。」実際そうでした。

彼の遺体を検死した結果、放射性物質のポロニウムが検出されたんです。
ポロニウムは国家機関でない限り入手できないものです。
彼はポロニウム・毒を盛られ、これ以上秘密を喋れないようにし、そして、これ以上 FSB から裏切り者が出ないように見せしめのために暗殺されたのです。
イギリスはこの 2 人の職員を引き渡すようにロシアに言っていますが、ロシアはノーです。
絶対に引き渡しません。動かぬ証拠があっても引き渡さない。

リトビネンコ氏が亡くなる 2 日前、彼の親友が遺書をいくつか口述筆記しました。
1 つはプーチン大統領宛です。その内容は 2006 年 11 月 24 日の BBC ニュースに掲載されました。
和訳したものをインターネット上で読むことができます。

「あなたは私を沈黙させることに成功したかもしれない。しかし、この沈黙には代償が伴うのだ。
あなたは、自分に最も敵対的な批判者たちが主張して来たとおり、野蛮で非情であることを示した。
あなたは、自分が命と自由・いかなる文明的価値にも敬意を持たないことを示した。
あなたは、自分自身が大統領職に値しない人物、文明的な人々からの信頼に値しない人物であることを示したのだ。あなたは 1 人の男を沈黙させることに成功したかもしれない。

しかし、世界中からの抗議の叫びは、プーチン殿、あなたの耳の中で死ぬまで反響し続けるだろう。私だけでなく、愛すべきロシアとその人々に対してあなたが犯した行為を、**神が赦してくださいますように。**」

リトビネンコ氏がクリスチャンだったかどうかは分かりませんが、少なくとも良心的な人物であることは分かります。最後に神の名を使って呪いで締めくくることを、恐れてやってないんですね。神の名を呪いのために使うことはできない。

その敬虔な思いで「神があなたに赦しを与えてくださいますように」と締めくくったのです。つまり、「私を消すことはできても、あなたのすべてをご覧になっている神の存在を消すことはできませんよ。」

プーチン大統領に信仰があるならば、この言葉は彼の内側から彼を訴える叫びとなることでしょう。しかしプーチンは、その後もよく似たことを継続しています。すなわち悔い改めがない。形の上でキリスト教徒の儀式を演じているかもしれませんが、それらはみな“ロシア正教を利用することによって、敬虔なロシア正教の人々の支持を得る”ために過ぎないんですね。

さて、これからウクライナ戦争について、シリーズで考えて行きたいと思います。日本にも直結する問題だからです。

延々と続きそうなので、今日はここで終わります。よろしければ、またお付き合いください。チャンネル登録もお願いします。

ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！